

平成 18 年度 陵墓関係調査報告

陵墓調査室

調査の概要

当調査室においては、「周知の遺跡」となっている陵墓で、保全・整備のための土木工事などを実施するにあたり、施工区域・箇所における遺構・遺物の有無を確認し、工法の決定に資するために事前調査・立会調査をおこなっている。平成 18 年度も各陵墓監区事務所や京都事務所などの関係機関、さらには地元教育委員会とも協力し、以下の区域・箇所において調査を実施した。その概要を記すことにする。

〔事前調査〕

例年であれば、翌年度の墳丘部を中心とした特別營繕工事箇所の事前調査を実施するところであり、来年度に工事予定の清寧天皇陵が対象となるはずであった。しかし、清寧天皇陵で予定されている工事は、既存の外構柵を改修するための工事がメインであり、すでに調査・掘削された箇所にあたる。また、その他堆積土浚渫工事も予定されているが、雑排水により陸地化した場所を中心とした地域であり、遺構や遺物が検出される可能性が少なくと予想される。しかし、一部においては新規の掘削もあるため、工事に先立つ試掘や工期中の立会調査にて対応したい、と考えている。その詳細については、本誌次号で報告する予定である。

〔立会調査〕 22 件

1 桃山陵墓監区事務所（京都市伏見区桃山町古城山）引込架空電気幹線地中化工事に伴う調査

桃山監区、9 月実施、担当：石塚俊光・山田昭彦・森下利光

当監区事務所が位置する場所は南側に張り出しており、伏見城に関わる遺構が存在する可能性が高いところである。その西側から南側にかけて、最深で約 1 m 掘削することになったため、その掘削等に立ち会った。表土下は拳大の礫を多く含み締まりもなく、後世の盛土と考えられたが、ハンドホール設置箇所の掘削床面付近では、締まりのよい茶褐色土が検出され、地山とも考えられた。遺構遺物は確認されなかった。

2 後宇多天皇蓮華峯寺陵（京都市右京区北嵯峨朝原山町）防災整備工事に伴う調査

桃山監区、11 月～3 月実施、担当：北村浩二・平木和史・高濱繁伸

参道の両脇にある大池（東池）と小池（西池）の護岸工事等に伴う掘削等に立ち会った。両池ともに床面付近には締まりのよい堅緻な土層（地山）が検出された。地山を掘り込んで築池されたものであろう。余水吐造成部分についても、同様に地山が検出された。参道の通水函埋設箇所については、池底に近い部分はやはり地山であったが、その上は盛土によって参道が形成されていると考えられる。遺構は確認されなかった。除去した堆積物も精査したが、遺物は認められなかった。両池に関しては、幕末から明治初期の資料に関連記述は認められない。初出は明治 38 年である（本誌第 55 号参照）。現在の参道は明治 38 年以降に造成されたもので、旧参道は拝所の西側面から参入する状態となっていた。今回の調査結果も、そのことを裏付ける結果となった。

3 後嵯峨天皇陵（京都市右京区嵯峨天竜寺芒ノ馬場町 天竜寺内）以下透塀改築その他工事に伴う調査

桃山監区、12 月～3 月実施、担当：高橋秀明・平尾伸也

隣接する後嵯峨天皇陵・龜山天皇陵の透塀控柱基礎部 4 箇所、および世良親王墓（京都市右京区嵯峨天竜寺造路町 臨川寺内）正門と袖塀控柱基礎部 4 箇所の掘削等に立ち会った。前者はチェーンブロックを使用して、在来のコンクリート控柱基礎部全体を撤去し、周りの崩れた土を浚える作業であった。そのため、新規の掘削はなかったが、6 箇所の掘削坑の周りの土から根固めに使用したと思われる焼瓦

が22片出土している。後者では在来基礎の掘方内にとどまり、埋戻土であった。ともに遺構は確認されなかった。出土瓦のほとんどは平瓦の小片で赤褐色もしくは灰褐色を呈し、凸面には縄蓆文、凹面には縄目を認めるものがある。

4 桃山陵墓地（京都市伏見区桃山町古城山）竹根防止工事に伴う調査

桃山監区、1月～3月実施、担当：森下利光・舩吉悠也

報告文は後掲する。

5 桃山陵墓地（京都市伏見区桃山町古城山）交通信号機設置工事に伴う調査

桃山監区、3月実施、担当：石塚俊光・宮田一弘

当陵墓地の南参道大手坂交差点に、交通信号機を設置することになり、その掘削等に立ち会った。当地は京都市道敷として同市に使用許可している場所である。掘削深度は約1.8mに及んだ。上半は道路敷に伴う盛土やその後に排水管を設置した際の攪乱層、その下位には盛土と思われるやや粘質を帯びた赤褐色土層があり、床面付近は地山であった。遺構・遺物は認められなかった。

6 天智天皇陵（京都市山科区御陵上御廟野町）外構柵設置その他整備工事に伴う調査

月輪監区、12月～3月実施、担当：藤原雅人・鎌谷幸一

西側境界線沿いの侵入防止柵設置箇所掘削等に立ち会った。施工地は広範囲にわたるため、土層は各所で少しずつ異なっていたが、色調などから9層に分けられた。つまり、Ⅰ：表土（黒～灰色砂質土）、Ⅱ～Ⅶ：盛土（礫混じりの黄～茶褐色粘質土）、Ⅷ・Ⅸ：地山（均質な淡茶褐色粘質土、Ⅸは礫を含む）であった。地山は参道東側の水路改修工事箇所の南側で認められた。遺構・遺物は検出されなかった。

7 大原西陵（京都市左京区大原草生町）石柵改修その他工事に伴う調査

月輪監区、1月・2月実施、担当：岡田日出男・米谷有朋

拝所内の石柵改修などに伴う掘削等に立ち会った。当該箇所は昭和43年にも掘削がおこなわれており、今回の掘削もその範囲内にとどまった。遺構・遺物は認められていない。

8 皇后廣姫息長陵（滋賀県米原市村居田）駐車場整備工事に伴う調査

月輪監区、7月実施、担当：有馬 伸

報告文は後掲。

9 磐坂市邊押磐皇子墓（滋賀県東近江市市辺町）鳥居新築工事に伴う調査

月輪監区、11月実施、担当：有馬 伸・藤林幸祐・山本忠浩

報告文は後掲する。

10 武烈天皇陵（奈良県香芝市今泉）後背部電柱支線設置工事に伴う調査

畝傍監区、6月実施、担当：北村 豊・堂園雅章

当庁発注工事ではないが、本陵後背部を通る市道の拡幅工事によって電柱が移設されることとなり、安全確保の面から電柱を引っ張る支線を陵墓地内に設置する必要が生じたため、その掘削等に立ち会った。表土下は地山と思われる砂質土であった。遺構・遺物も確認できなかった。

11 武烈天皇陵（奈良県香芝市今泉）拝所北側境界沿電柱設置その他工事に伴う調査

畝傍監区、10月実施、担当：北村 豊・堂園雅章

前述の10同様に当庁発注工事ではないが、本陵拝所北側境界沿の当域内に電柱と支線2本を設置することになり、その掘削等に立ち会った。表土下に外堤盛土層と旧水田耕土と思われる土層が認められた。遺構・遺物は検出されなかった。

12 称徳天皇陵（奈良市山陵町）駐車場車止柵改修工事に伴う調査

畝傍監区、11月実施、担当：西村悦二・藤田 裕

陵前にある車止柵改修箇所の掘削等に立ち会った。最大で約30cm掘削したが、駐車場敷地の造成土および舗装用整地土内にとどまり、遺構・遺物も確認できなかった。

- 13 皇后日葉酢媛命狭木之寺間陵（奈良市山陵町）暗渠排水管改修工事に伴う調査
畝傍監区、2月実施、担当：坂部泰生・藤田 裕
外堤の西南隅付近の道路敷下にある暗渠排水管を改修に伴う掘削（長さ7.5m×幅1.1m×深さ0.6～1.1m）に立ち会った。基本的に既設箇所の再掘削であったが、北壁のほぼ中央で断面に一部礫が露出しているのが認められ、壁面を精査したところ連続していることが確認された。端部の一部は重なってはいるが、段積みにはなっていなかった。礫群は東側に向かって約20度の傾斜で下降しており、当陵外堤内法の葺石となる可能性がある。それより東側は後世の盛土であった。なお、南壁側はすでに攪乱されており、礫群は確認できなかった。また、遺物も認められなかった。
- 14 飯豊天皇陵（奈良県葛城市北花内）墳塋護岸その他整備工事に伴う調査
畝傍監区、12月・2月・3月実施、担当：清喜裕二・加藤一郎・山本昌弘・本多 均・濱本厚志
報告文は後掲する。
- 15 仁徳天皇陵（大阪府堺市堺区大仙町）外構柵撤去工事に伴う調査
古市監区、8月実施、担当：井上 武・笹尾佳裕
後円部北東側の外構柵基礎設置箇所の施工に立ち会った。既存の外構柵の基礎を撤去したのみで掘削を伴わなかったため、調査範囲は既存の外構柵設置時の埋戻し土の範囲内にとどまった。遺物は認められなかった。
- 16 仲哀天皇陵（大阪府藤井寺市藤井寺4丁目）駐車場入口整備工事に伴う調査
古市監区、10月実施、担当：浅井良寛・小谷武史
駐車場入口部分の掘削・埋め戻し時に立ち会った。既存のアスファルト舗装および縁石を撤去後、掘削箇所を確認したが、舗装時の砂利敷と縁石のコンクリート基礎のみであった。遺構・遺物は確認されなかった。
- 17 允恭天皇陵（大阪府藤井寺市国府1丁目）駐車場車止改修工事に伴う調査
古市監区、11月実施、担当：川添 悟・古河稔也
駐車場車止改修箇所の掘削等に立ち会った。掘削はアスファルト舗装時の盛土および整地土内にとどまった。遺構・遺物は認められなかった。
- 18 仁徳天皇陵（大阪府堺市堺区大仙町）外構柵その他整備工事に伴う調査
古市監区、12月・1月実施、担当：井上 武・安岡徹悦・笹尾佳裕
後円部北側の裏門の渡土堤舗装箇所および外構柵撤去箇所の掘削等に立ち会った。掘削は近年の盛土および攪乱土層の範囲内にとどまり、遺構や遺物は検出されなかった。
- 19 仁徳天皇陵（大阪府堺市堺区大仙町）鳥居改築工事に伴う調査
古市監区、2月実施、担当：井上 武・笹尾佳裕
既存のコンクリート基礎を再利用することとなったため、掘削は旧鳥居改築時の埋戻し土内にとどまった。遺構・遺物は確認されなかった。
- 20 来目皇子墓（大阪府羽曳野市はびきの3丁目）参道公共下水道管理設工事に伴う調査
古市監区、2月実施、担当：浅井良寛・小谷武史
当墓の参道入口部付近は、羽曳野市に道路敷として一時使用を認めている箇所である。今回、当地において羽曳野市が下水道管を設置する工事をおこなうことになったため、当部としても掘削（深さ約1.3m）等に立ち会うことになったものである。平成17年12月に羽曳野市がおこなった調査成果などをもとにすると、今回、地表から約30cm下で確認された黄褐色粘質土は、外堤の盛り土と考えられる。また、地表から約80cm下で黄褐色砂質土の地山が確認できた。遺物は認められなかった。
- 21 仁賢天皇陵（大阪府藤井寺市青山三丁目）土留柵設置工事に伴う調査
古市監区、3月実施、担当：浅井良寛・小谷武史
参道脇および拜所裏の各土留柵設置箇所の掘削等に立ち会った。参道脇の掘削箇所では、嵩上げする

前の参道に伴うものと思われる二段の石積が認められ、掘削は現参道整備時の埋戻し土内にとどまった。拜所裏の掘削箇所では地表から約 40 cm 下で拜所整備時の盛土（黄灰色粘質土）、約 1.5 m 下で地山である灰白色粘質土を確認した。原初の外堤は確認出来なかった。遺物は認められなかった。

- 22 天皇家族鬘齒爪塔地（和歌山県伊都郡高野町大字高野山 金剛峯寺奥の院）見張所修繕工事に伴う調査
古市監区、3月実施、担当：有馬 伸・富賀 稔・井上 武・川添 悟
報告文は後掲する。

また、平成 18 年度には以下のような調査も実施した。

〔墳丘調査〕 1 件

- 23 黄金塚陵墓参考地（奈良市田中町）
畝傍監区、3月実施、担当：清喜裕二・有馬 伸・三井朋宏・徳永真明
前年度に引き続き実施した。本年度は横穴式石室の実測調査をおこなった。報告文は本誌に別途収載する。

〔文献調査〕 1 件 3 箇所

- 24 向日市文化資料館（京都府向日市寺戸町）・霊鑑寺（京都市左京区鹿ヶ谷御所ノ段町）・雲龍院（京都市東山区泉涌寺山内町）
1月・2月実施、担当：北條朝彦
向日市文化資料館では中山祥夫家文書、霊鑑寺では『御日記』、雲龍院では域内に所在する後光厳天皇分骨所以下二分骨所一灰塚五墓関係の法要などに関する文書を調査した。

〔所蔵出土品関係資料調査〕 2 件

- 25 國學院大学栃木学園参考館（栃木市平井町）
2月実施、担当：徳田誠志
國學院大学栃木学園には、奈良県北葛城郡河合町大字佐味田付近出土と伝えられる倣製三角縁神獸鏡が保管されており、当部保管品との関連性を知るため、熟覧等をおこなった。
- 26 京都大学総合博物館（京都市左京区吉田本町）
3月実施、担当：清喜裕二・加藤一郎
京都大学総合博物館が所蔵する兵庫県篠山市雲部陵墓参考地（雲部車塚古墳）と大阪府羽曳野市応神天皇陵飛地ほ号（墓山古墳）出土資料ほかの実測をおこなった。雲部陵墓参考地出土資料は前年度に引き続いての実測であり、機会を見て報告する予定である。

〔その他〕 1 件

- 27 金属製品の保存処理に伴うエックス線撮影
8月～3月実施、担当：加藤一郎
当部では例年、所蔵する金属製品の保存処理を実施しているが、当年度は藤井寺陵墓参考地（大阪府藤井寺市津堂：津堂城山古墳）出土の環頭刀など 107 点を対象とした。その一部は昭和 60 年度「武器 武具馬具」展にて展示し、関係図録も刊行しているが、錆などによる劣化が進展しているので、保存処理をおこなったものである。中国製と思われる内反りの鉄刀なども含まれている。保存処理に先立ってエックス線撮影を実施したが、象嵌等は認められなかった。（福尾正彦）